

実践のまとめ（第3学年 英語科）

授業公開日 令和7年10月7日第5校時

指導者 長岡市立江陽中学校

教諭 高井 伸弥

1 研究テーマ

自分の意見や考えを根拠や理由とともに伝えられる生徒の育成

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

生徒たちの授業での姿から、原稿や用意した文章に頼ることなく即興的な表現活動を帯活動で行ってきた。このような活動を継続的に行うことで、生徒の発話量は高まったが、意見を支える根拠や理由があいまいであったり、整理できていなかったりする場面が多く見られた。自分の考え・意見を支える根拠・理由や自身の体験が相手に伝わるように考えさせたり、支援したりすることで、説得力と自信をもってコミュニケーションが取れる生徒を育成していきたい。

(2) 研究テーマに迫るために

① 中間指導の充実について

自分の意見や考えを根拠や理由とともに伝えられる生徒の育成を目指し、中間指導の充実を目指す。言語活動における中間指導では、内容面の適切さと言語面の正確さの視点から指導していく。

② 言語活動の充実について

生徒が自分の意見や考えを根拠や理由とともに伝えることができるような目的・場面・状況を設定した言語活動を行う。

本単元では、ゴールを「長岡市のALTの先生方からのメールに返信しよう。」とした。

長岡市内のALTの出身国のスマートフォンの利用状況や法律などに関する情報と、それについての意見をメールで送ってもらい、そのメールに返信をすることを単元のゴールとして設定した。一方的な情報の発信や架空のやり取りではなく、実際のコミュニケーションの相手を設定することで、相手意識や英語を使用する必然性をもたせることが期待できる。

③ 協働的な学びについて

言語活動後に、内容面の適切さと言語面の正確さの向上を目指し、教師による指導だけでなく、生徒同士のアドバイスタイムを設定する。これまでは「話すこと（発表）」がゴールであったため、内容面へのアドバイスのみとしてきたが、本実践では、メールの返信を書くことを単元の目標としているので、アドバイスタイムを通して、相手を意識したメールの内容にしていくとともに、言語使用の正確さについてもアドバイスし合えるように工夫していきたい。

(3) 研究テーマにかかわる評価

① 抽出生徒の変容の見取り

構想シートをもとに書かれた英作文が単元の前半と単元末とでどのように変容したかを内容面に着目し、比較する。

② 生徒の「ライティング活動」への意識の変容をアンケートから見取る。

英作文において、『意見・考え』と『理由・根拠』のつながりについての意識と意識することでの効果や困難さについて調べ、成果や課題について検討する。

3 単元と指導計画

(1) 単元名 Lesson 6 Being Fair (NEW CROWN3 三省堂)

(2) 単元の目標

「各国のスマホ利用やルール」について書かれたメールを読み、自分が考えたことや感じたことなどを踏まえ、メールの返信をしよう。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・関係代名詞 目的格 (that / which)、接触節を用いた文の意味・構造を理解している。	「各国のスマホ利用やルール」について書かれたメールを読み、返信の内容が、自分が考えたことや感じたことなどを踏まえている。	「各国のスマホ利用やルール」について書かれたメールを読み、自分が考えたことや感じたことなどを踏まえて返信を書こうとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全14時間、本時12／13時間）

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法 (評価方法は【 】内で記述する。)
1 (1)	扉、Preview (p71) ・導入 ・本単元のゴールとループリックの確認	◎単元のゴールを確認しよう。 ◎説得力のある文章とはどのようなものか考えよう。	
2 (3)	・Part 1 ・導入 (Scene1) ・概要把握 (Scene2) ・関係代名詞 (目的格) 導入 ・書く活動「School lunch or Bento」	◎世界の国々の国民食クイズに答えよう。 ◎マークとアリスの考えをまとめよう。	知識・技能 関係代名詞 (目的格) の意味や用法を理解している。 【ワークシート】
3 (3)	Part 2 ・導入 (Scene1) ・概要把握 (Scene2) ・関係代名詞 (目的格) 導入 ・書く活動「Do you watch movies in English?」	◎自分の好きな本についてまとめよう。 ◎マークとアリスが作る料理について整理しよう。	知識・技能 関係代名詞 (接触節) の意味や用法を理解している。 【ワークシート】
5 (3)	USE Read ・本文導入 ・Guide 1 (概要把握①)	◎ウェブサイトの説明文の概要を把握しよう。	

	<ul style="list-style-type: none"> • Guide 2 (概要把握②) • Guide 3 • Goal (筆者の考えのまとめ) 	◎筆者が記事で伝えたいことについてまとめよう。	
6 (3)	<p>USE Write</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「各国のスマホ利用やルール」についてのメールを読み、考えを構想メモに記入する。 • 構想メモをもとに友達に考えを伝えよう。 • 構想メモをもとに、自分の考えをまとめ、メールの返信をしよう。 	◎「各国のスマホ利用やルール」についてのメールを読み、自分の考えをまとめ、レポートにまとめよう。	<p>思考・判断・表現</p> <p>「各国のスマホ利用やルール」に対する考えを自分の過去の体験や事実等を交えながらまとめている。</p> <p>【練習の様子】【パフォーマンステスト】</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>「各国のスマホ利用やルール」に対する考えを自分の過去の体験や事実等を交えながらまとめている。【パフォーマンステスト】【発表練習の様子】</p>

5 単元と生徒

(1) 単元について

単元の最終ゴールは、各国のスマホ利用やルールについて、自分の考えをメールの返信にまとめることとした。このゴール達成するために、単元を通して類似した言語活動を設定する。言語活動を繰り返し行うことで、生徒に知識や技能を身に付けさせるとともに、目的・場面・状況等に応じて、思考させたり判断させたりしながら、適切な英語を使用して表現できるように指導していく。また、本単元の言語活動では、「話したことを書く」というプロセスを大切にす。英文を書くことへの抵抗感を減らすために、メモをもとにして話す活動を行うことで伝えたい内容を整理することができ、その後の書く活動にスムーズに移行できると考える。

(2) 生徒の実態

生徒はこれまでに、メモをもとにしたスピーチ活動に意欲的に取り組んできた。自分の考えとそれを支える理由を口頭で表現することに慣れてきており、活発に意見交換する様子が見られる。

しかし、自分の考えを文章として記述することに苦手意識を持つ生徒も多い。文法やスペルのミスへの不安が強く、書く内容が単純になったり、表現の幅が狭くなったりする姿が見られる。これまで、構想メモをお互いに紹介し合ったり、生徒が書いた英文を教師が生徒とともに添削したりする活動を設定してきた。

6 本時の展開

(1) 本時の目標

自分にしか書けない、「根拠」と「理由」を盛り込んだメールの返信を書こう。

(2) 展開

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け 予想される児童（生徒） の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
5	1. 目的・場面・状況の確認 2. Today's Goal確認	○机間巡視、目的・場面・状況を全体で確認する。	◇言語面の正確性を指導するとともに、本時では、特に内容面の適切さを重視して指導する。
<div style="border: 2px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>Today's Goal</p> <p>Challenge writing! Write your opinion with strong reasons!</p> </div>			
20	3. 思考メモの作成(5 min) 思考ツールを用いて、自分の意見や考えを書き込む。 4. ペアトーク①(4 min) 5. 中間指導(5 min) 6. ペアトーク②(2 min) 7. 中間指導②(4 min)	○内容面や理由が充実するように、思考ツールにメモを多く書かせる。 ○発表練習の様子から共有すべき表現と「言いたかったけれど言えなかった表現」について確認する。	○多様な思考ツールを用意し、生徒に選択させる。 ◇中間指導で取り上げられそうな表現やミスに着目しながら机間巡視を行う。 ◇共有すべき表現は「訂正」だけでなく、良かった表現を多く取り上げる。
20	8. Challenge Writing① (7 min) ALTからのメールの返信を、自分なりの考えや理由とともに書く。 9. アドバイスタイム(8 min) 友人の英文を読み、アドバイスを送る。 友達の書いたメールの返信を読み、アドバイスを送ろう。	これまでのライティング活動での表現を見ながら、メールの返信を書くよう伝える。 ○アドバイスする視点を提示する。(内容が正しく伝わるか、根拠や理由が明確であり妥当か)	○必要であれば、メールの書き方のプリント(既習)を使用するよう声をかける。

	10. Challenge writing② (5 min) アドバイスをもとに、メールの返信を推敲する。		
5	振り返り ・本時のねらいの達成状況や気づきについて記入する。	○本時のねらいに沿った振り返り項目について、「言いたかったけれど言えなかった表現」があれば記述する。	◇本時の感想だけにならず、次回の発表につながるような記述をするよう、声かけをする。

(3) 本時の評価

- ① Challenge Writingや振り返りの活動を通して、より説得力のある理由や根拠を書くことができる。(思考・判断・表現)
- ② 友人のメールの返信の内容がよりよいものになるよう、読み手の立場や伝わりやすさを考慮しながらアドバイスを送ることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

7 実践を振り返って

(1) 授業の実際

ライティングの構想段階において、生徒の主体的な学びを促すため、思考ツール（ウェブングやフィッシュボーン等）を生徒自身に自由に選択させた。生徒は自身の思考スタイルに合ったツールを用いることで、文章の構成やALTへの返信メールに盛り込む考え・意見、その理由・根拠等を書き出し、文章構成と内容を検討した。構想を練った後、生徒はペアトークを実施し、口頭で相手に伝わるかどうかを確認した。この活動により、書く活動の前に、構成や内容面の不足に気付くことができた。

ペアトーク後に行った全体への中間指導では「聞き手や読み手を意識できていた表現」に焦点を当てて取り上げた。他者意識をもたせるよう工夫して指導し、単に自分の考えを書くだけでなく、「相手に伝える」という視点を生徒に明確にもたせた。その後実施したチャレンジライティングでは、生徒は、自分なりの考えや意見を理由とともに記述したALTへの返信メールを作成することができた。ペアトークと中間指導を経たことで、スムーズに書くことの活動に入ることができたと考えられる。図2の抽出生徒Aの英文のBecauseや、図4の抽出生徒Bの英文のI use it when~のように、明確な主張と説得力のある根拠をもつ文章が多く見られた。

最終的なアドバイスタイムでは、内容面（意見・考えの明確さ、理由・根拠の説得力など）に特に着目させながらアドバイスの交換を行った。生徒は、このアドバイスをもとに、構想を練り直したり、メールの文章を推敲したりする姿が見られた。これにより、一度書いた文章に他者の視点を取り入れ、より良いものにしようとする姿勢が育成された。

(2) 研究テーマに関わる評価

① 抽出生徒の変容について

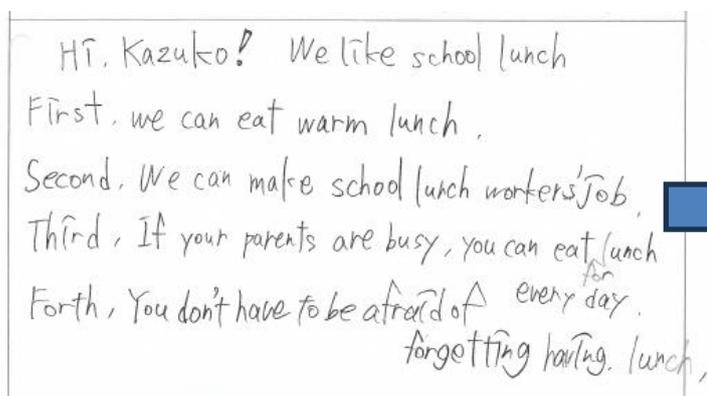
同じ時間内で生徒が書いた英作文の内容には、単元の前半と後半とで、大きな変容が見られた。単元の前半と単元末とで、内容面において顕著な変容が見られた。

単元開始時は、生徒たちは自分の意見とその理由を記述しているのみであり、自身の体験や理由・根拠の妥当性が低いものが見られ、意見を支える理由や根拠とまでは言えないものが多かった。また、単元開始時の英作文では、主張に対する理由や根拠を提示する際、理

由の記述が「一文のみ」になってしまったり、詳細に説明していなかったりする英文が見られた。特に、抽出生徒Bに見られたように形式的な理由付けにとどまる生徒が少なくなかった。

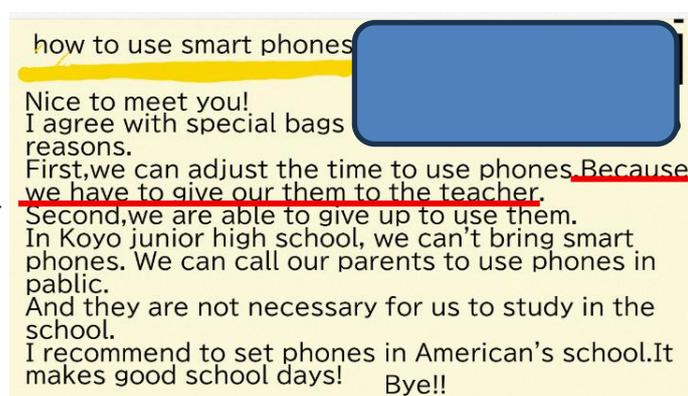
単元末では、生徒たちの英作文は内容面において大きな変容を見せ、特に、指導で重点を置いた「意見を支える具体的な根拠や理由」の記述が多く見られた。意見を支える根拠も具体的で説得力のあるものに変容した。生徒たちの英作文の多くで、生徒自身の具体的な学校生活の体験や、スマートフォンの利用状況といった経験について書いており、それらが意見を支える確かな根拠や理由となっていた。これは、生徒が思考ツールを使って深く構想を練ったことや、アドバイスタイムや中間指導での「読み手を意識する」視点をもてたためであると考えられる。

単元を通して、主張と根拠を結びつける論理的な構造を意識した指導を徹底した結果、生徒は自分の意見と抽象的な理由だけにとどまらず、自分の経験を説得力のある根拠として活用できるようになった。これらの成果から、内容面を大切にしながら中間指導や読み手を意識したアドバイスタイムは、研究テーマに向けた指導として、有効であったと考えられる。



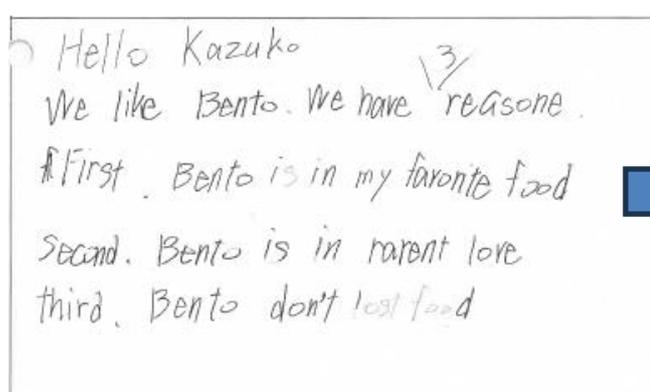
Hi, Kazuko! We like school lunch
First, we can eat warm lunch.
Second, We can make school lunch workers' job.
Third, If your parents are busy, you can eat lunch
Forth, You don't have to be afraid of ^{for} every day.
forgetting having lunch,

図1 抽出生徒Aの単元開始時の英作文



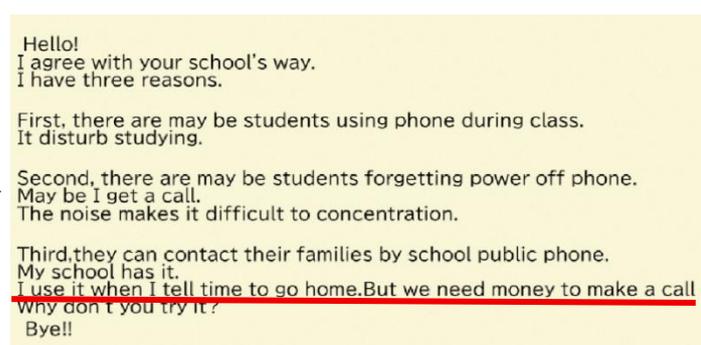
how to use smart phones
Nice to meet you!
I agree with special bags reasons.
First, we can adjust the time to use phones. Because we have to give our them to the teacher.
Second, we are able to give up to use them.
In Koyo junior high school, we can't bring smart phones. We can call our parents to use phones in public.
And they are not necessary for us to study in the school.
I recommend to set phones in American's school. It makes good school days! Bye!!

図2 抽出生徒Aの単元末英作文



Hello Kazuko
We like Bento. We have ³ reasons.
First, Bento is in my favorite food
Second, Bento is in parent love
third, Bento don't lost food

図3 抽出生徒Bの単元開始時の英作文



Hello!
I agree with your school's way.
I have three reasons.
First, there are may be students using phone during class. It disturb studying.
Second, there are may be students forgetting power off phone. May be I get a call. The noise makes it difficult to concentration.
Third, they can contact their families by school public phone. My school has it.
I use it when I tell time to go home. But we need money to make a call.
Why don't you try it?
Bye!!

図4 抽出生徒Bの単元末の英作文

② 生徒の「ライティング活動」への意識の変容について

単元開始時と終了時に、「書くこと」に関するアンケート調査を行った。調査項目は以下の3問とした。

質問1：「英作文において、『意見・考え』と『理由・根拠』のつながりを意識している。（選択肢による回答）」

質問2 「英作文を書く際、「意見と理由・根拠」を意識した結果、あなたの作文に最も変化があった点は何か。（選択肢による回答）」

質問3：「『意見・考え』と『理由・根拠』のつながりを意識するうえで、難しいと感じたことは何か。（自由記述）」

質問1 「英作文において、『意見・考え』と『理由・根拠』のつながりを意識している。」について

図5から図6のような変容が見られた。単元を通しての、『意見・考え』と『理由・根拠』のつながりについての指導や、類似の課題への取り組みが生徒の意識を変容させたと考えられる。

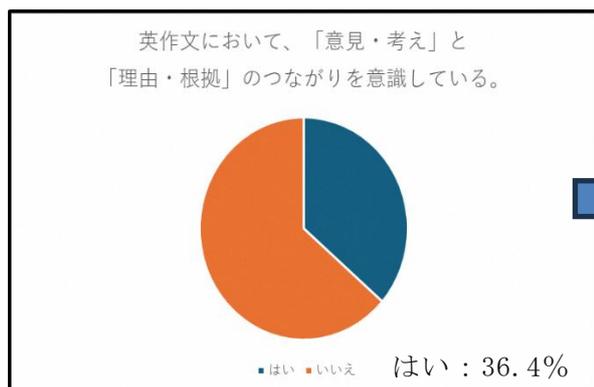


図5 質問1 単元開始時

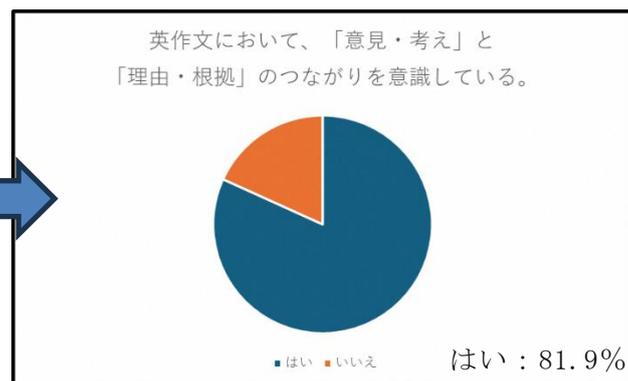


図6 質問1 単元末

質問2 「英作文を書く際、『意見と理由・根拠』を意識した結果、あなたの作文に最も変化があった点はなにか。」について

質問2の回答への選択肢は、①文章の構成に関する項目、②根拠・理由の深まりに関する項目、③語数の増加に関する項目、④新たな語彙・表現の獲得に関する項目とした。

アンケート結果（図7）から、生徒は「意見・考え」の「理由・根拠」を意識することで、英作文の構成と表現の幅が広がったことが分かった。また、説得力のある文章となるよう、自分の感情や経験を伝えられるようになったと感じる生徒もおり、内容面の適切さの向上へとつながられる生徒が多くなったことも分かった。

「英作文を書く際、「意見と理由・根拠」「strong reasons」を意識してきました。あなたの作文に最も変化があった点は何か。

23件の回答

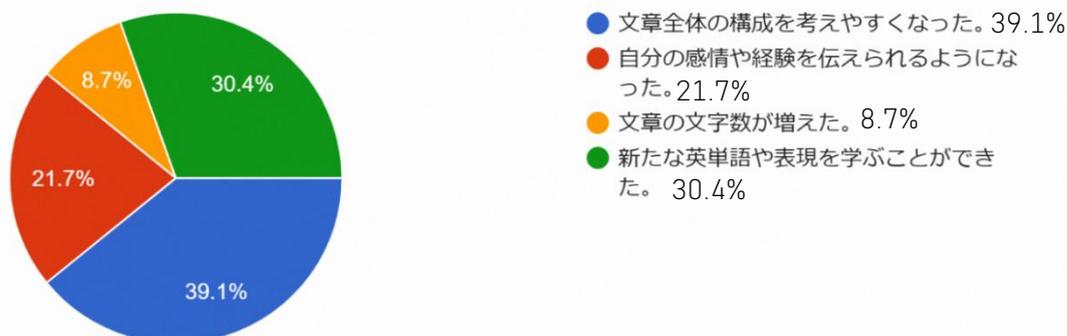


図7 質問2への回答

質問3 「『意見・考え』』と『理由・根拠』のつながりを意識するうえで、役に立ったことや難しいと感じたことは何か。（自由記述）」について

質問3の回答では以下の記述が見られた。（☆：役に立ったこと、△：困難さを感じたこと）

- ☆①理由を言ってから自分の経験を述べて意見を伝えると、つながりやすいと思った。
- ☆②意見を書いた後に理由を述べるという構成が頭の中で組み立てられていった。
- ☆③自分の意見を理解してもらうためには理由をしっかりと説明しないといけないから、できるだけ理由を短くまとめて、わかってもらえるようにすることが大切だと思った。
- ☆④理由や根拠を考える時に、この理由が相手を納得させられるものかを考えるようになった。
- △①理由を自分が使える文法でどのように表現できるかを考えることが難しかった。
- △②いろんな文法で、伝えたいことを表現するのが難しかった。
- △③使いこなせる接続詞や書くことができる単語が足りないと感じた。

☆①のように、「意見・考え→理由→経験・体験」の順で、ただ理由を述べるだけでなく、さらに自身の具体的な経験で説得力のある文章を展開できる生徒が増えてきたことが分かった。また、☆③、☆④の記述より、理由を列挙するだけでなく、相手意識をもち、どうしたら自分の意見や考えにより説得力をもたせられるかを考えられるようになったことも分かった。

△①、△②の記述から、相手に伝えたいが英語に直すことができない際、生徒がどのように修正すればよいかをさらに指導する必要があると感じた。自分が伝えたいことをより簡単な日本語で言い換えさせたり、自分が伝えたいことは何か整理させたりするなどの方法を生徒に指導したい。

(3) 今後の課題

中間指導やアドバイスタイムを経て、生徒の内容面の適切さが大きく向上した。また、英作文の比較から、言語面の正確さも向上したと考える。しかし、語順や冠詞の有無、スペリングといった言語面の正確さが十分に定着していない生徒も見られた。今後は、内容の適切さを維持しつつ、中間指導後に推敲の機会を組み込んだり、生成AIを活用させたりして、効果的に言語面の正確さを高める指導を工夫していきたい。

また、今後は社会的な話題（例：環境問題、地域の課題解決など）に関しても理由や根拠を示しながら、自分の考えや気持ちを相手に伝えられるようにできるよう、言語活動を軸とした授業づくりを進めていきたい。

<引用・参考文献>

文部科学省（2018）. 『中学校学習指導要領解説 外国語編』 開隆堂出版株式会社